

千葉都市モノレール株式会社 第34期（平成23年度）決算の概要

平成24年6月28日
千葉都市モノレール株式会社

営業の概況

当期（平成23年度）は、3.11東日本大震災の影響に加え、これまでに経験のない急激な円高等により、企業活動が混迷を極めた1年でありました。

当社においても、少子高齢化の影響に加え、震災による影響が当初の予測より長期化し、利用客の減少傾向が期末まで続く結果となり、大変苦戦を強いられる年となりました。

このような状況の中、当期は中期経営計画のもと、「つなぐ・めぐる・つどう」をキーワードに、モノレール応援隊の拡充や沿線施設・企業・団体等との連携強化といった地域に活力を与える営業活動に取り組んだほか、更なる増収策の取り組み、お客様サービスの充実、安全対策の強化等積極的な事業を展開してまいりました。

この結果、当期も6期連続での黒字経営を堅持することができました。

安全対策面では、東日本大震災により被害を受けた諸設備の補修を速やかに実施し安全を確保したほか、毎年9月に定例的に実施している災害対策訓練に加え、3.11を教訓とした地震対策訓練を実施するなど、これまで以上に安全に対する意識の向上に努めました。

設備面では、開業以来初の新型車両となる「アーバンフライヤー」が導入され、営業運転開始に向け性能試験を開始しました。

また、このほか無線装置のデジタル化、ATC/TD装置の更新など、設備更新計画に基づき着実に実施してまいりました。

営業実績（概要）

当期の輸送人員は、東日本大震災の影響が長期化し、輸送人員全体といたしましては、対前期比4.28%減の1,582万人となりました。

定期外輸送人員は、震災直後の出控え、スポーツセンター施設の一部使用制限や千葉市民花火大会の中止に加えて、9月まで実施した節電対策に伴う列車運行本数削減の影響もあり、6.33%（54万4千人）の大幅減少となりました。

定期輸送人員につきましては、通学定期は100.64%と、ほぼ前期並みの実績を確保できましたが、通勤定期は2.59%の減少となり、定期輸送人員全体としましては、2.05%（16万2千人）の減少となりました。

一方、運輸収入につきましては、全体では対前期比4.13%（1億2千4百万円）減少の28億8,690万円となり、定期外収入は、5.66%の減少となりました。

定期収入につきましては、通学定期は101.42%とわずかながら増加しましたが、通勤定期は対前期比2.01%の減少であったため、定期収入全体としては1.49%の減少となりました。

<お問い合わせ先>

千葉都市モノレール株式会社

電話 043-287-8216

(参考)

輸送人員・運輸収入

	当 期	前 期	増 減	対前期比
輸送人員	(千人)	(千人)	(千人)	(%)
定期外	8,049	8,594	△544	93.67
定期	7,770	7,932	△162	97.95
合計	15,820	16,526	△706	95.72
運輸収入	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(%)
定期外	1,793	1,901	△107	94.34
定期	1,092	1,109	△16	98.51
合計	2,886	3,011	△124	95.87
営業費	2,583	2,652	△68	97.39

(単位未満の端数切捨)

【平成23年度の主な取り組み】

- ◆桜めぐり&ウォーキングの開催
- ◆僕も私も運転士の開催
- ◆各種イベント列車の運行
(ジャズトレイン ワイン列車)
- ◆アニメ「俺の妹がこんなに可愛いはずがない」コラボ切符の販売。
- ◆モノレール応援隊
 - ・ 葭川公園駅
「日本ガーディアン・エンジェルス千葉支部」による地域安全パトロール
 - ・ 作草部駅
高齢者支援施設「いきいきスペースみちくさ」の開設
- ◆JR東日本「駅からハイキング」の千葉市観光協会との共催
- ◆オリジナルグッズの新規製作
(モノレール型懐中電灯など)
- ◆ベビーカーキャンペーンへの協力
- ◆千葉モノレール全駅にエレベーターの完備